

電動アシスト自転車 取扱説明書

自転車を安全で快適にご使用いただくために必ずお読みください。

このたびは、お買い上げいただきありがとうございます。

いつまでも安全にお乗りいただくために、正しいご理解で使用していただくことが必要です。ご使用方法を誤りますと大きな事故につながりかねません。お乗りになるまえに、取扱説明書を良くお読みいただき、正しく安全にお使いください。お子様がご使用の場合は保護者の方が必ずよく読んで、正しい乗り方と注意事項などについてわかりやすくご指導ください。

お求めいただきました自転車は当社の厳重な品質管理のもとに生産されていますが、輸送中の振動等で組み付け等に緩みが生じる恐れがあります。ご使用にあたりましては、販売店や自転車店で必ず整備点検を実施してください。整備点検を実施せずにご使用された場合、品質保証の対象から外れることがあります。保証規定については、巻末および弊社ホームページをご確認ください。

この説明書は全車種共通となっております。図・写真は代表車種を記載させていただいているため、お買い上げいただいた自転車とは仕様が異なることがあります。

品質保証書および自転車点検チェックリスト付きです。
本書はいつでもお読みいただけるように大切に保管してください。

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	電源操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・	2	発進のしかた・・・・・・・・・・・・・	26
電動アシスト自転車について・・・・・・・・	6	変速機について・・・・・・・・・・・・・	27
自転車各部のなまえ・・・・・・・・・・・・・	7	施錠について・・・・・・・・・・・・・	27
自転車の組み立て 軽快車、折りたたみ軽快車・・	8	バッテリー本体残量表示・・・・・・・・	28
自転車の組み立て 折りたたみ車・・・・・・・・	9	バッテリーの取扱い、充電のしかた・・	29
自転車の組み立て スポーツ車・・・・・・・・	11	お手入れと保管・・・・・・・・・・・・・	32
自転車の組み立て 全車種共通 ペダル、カゴ・・	15	故障かな？と思ったら・・・・・・・・	33
幼児用座席の取り付けについて・・・・・・・・	18	防犯登録について・・・・・・・・・・・・・	35
ハンドルロックの操作説明・・・・・・・・	18	点検、整備チェックリスト・・・・・・・・	36
お乗りになるまえの点検と調整・・・・・・・・	19	品質保証規定・・・・・・・・・・・・・	37
交通ルールについて・・・・・・・・・・・・・	21		

はじめに

- ・購入後は必ず自転車取扱専門店における有技術者の初期点検および定期点検を実施してください。
- ・本自転車は日常生活用として設計されています。
- ・業務用・競技用としてはお使いにならないでください。
- ・お買い上げ店舗にご確認のうえ、必ず防犯登録を行ってください。
- ・自治体によっては、保険の加入が義務づけられています。自治体の指示に従ってください。
- ・取扱説明書は読んだあと大切に保管して、必要に応じてご活用してください。
- ・自転車をほかの人に譲渡される場合は、取扱説明書と保証書を一緒にお渡しください。
- ・品質・性能の向上及びその他の事情により、予告なく仕様変更をおこなう場合があります。
- ・本書のイラスト、写真は、イメージです。
お買い上げいただいた自転車とは、形状、デザインが異なる場合があります。

警告表示について

警告表示は危険の程度に応じて次の区分で表示していますのでとくに注意してください。

 警告	取扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重傷を負う可能性が想定されるもの。
 危険 注意	取扱いを誤った時に使用者が、障害を負う危険が想定されるとき及び、物的障害のみの発生が想定されるもの。
 禁止	危険の程度と関係なく、道路交通法で禁止されている行為（荷台等に二人乗りをする等）又は、当自転車ではいけない行為。
 強制	使用者に必ず実行していただきたいこと。

安全にご使用いただくためのご注意

- ご使用の前に必ず、次頁の「安全上のご注意」を良くお読みいただき正しくお使いください。
- お子様がご使用の場合は、保護者の方がこの「安全上のご注意」を必ずお読みいただき、正しい乗り方をご指導ください。
- 製品を正しく安全にお使いいただくための注意事項を記載しています。
安全に関する重要な内容です。必ず守ってご使用ください。

安全上のご注意（自転車）

警 告

購入後は必ず自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受ける。整備・調整されていない自転車に乗れますと、転倒や事故につながる恐れがあります。

ご使用開始から2ヵ月以内に販売店で、自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受ける。ご使用開始から2ヵ月ほどで各部のねじがゆるむことがあります。

6ヵ月ごとにお近くの自転車販売店で自転車安全整備士、自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。

また、部品の交換は下記の目安で行ってください。

- ブレーキワイヤーは、異常が無くても2年に1回は、交換してください。
- ブレーキレバーの遊びが大きいものはすぐに販売店で調整してください。
- ブレーキパッドは、溝の残りが1mmになる前に交換してください。
- チェーンのたるみの大きいものはすぐに販売店で調整してください。
走行時にチェーンが外れる恐れがあり危険です。
- タイヤは、接地面（トレッド）の溝が無くなる前に交換してください。

前後ブレーキ動作やハンドル・車輪の固定、タイヤ空気圧などの乗車前点検をおこなう。異常があれば、事故につながる恐れがあります。

空気圧が適正でないとパンクやリムの破損による転倒でケガをする恐れがあります。

自転車用ヘルメットを着用。頭部の保護のために有効です。

幼児を同乗させる場合も必ず自転車用ヘルメットを装着させてください。

走行中に異音が発生したり、自転車が転倒したり、水に浸かってしまったなどで異常が発生した場合は直ちに使用を中止し、保証書記載のサポートセンターまでご連絡ください。そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。

サドルやハンドルは引き上げ限界点標識が見えるまで上げない。

サドルやハンドルの折れや抜けによる、転倒や衝突によるケガの恐れがあります。

けんけん乗りはしない。転倒や接触事故によるケガの恐れがあります。

異常がある場合は乗らない。

異常があるまま走行すると事故や転倒によるケガの恐れがあります。

歩道の段差や溝など凹凸の激しいところを走らない。

フレームや車輪の損傷や転倒によるケガの恐れがあります。降りて押して歩いてください。

前ブレーキだけのブレーキ操作はしない。転倒によるケガの恐れがあります。

スピードを出しているときは急ハンドルの操作をしない。

曲がるときはスピードを出し過ぎない。スリップや転倒によるケガの恐れがあります。



強制



禁止

⚠ 警 告

荷物をハンドルや手にかけたり、ペットをつないで乗らない。
荷物が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒によるケガの恐れがあります。

回転部分に手や足、物を近づけない。巻き込みや転倒によるケガの恐れがあります。

巻き込みやすいものを車輪やギアに近接させて乗らない。
※長いスカートやマフラー、傘など

傘や釣りざお、ステッキ等を車体に差し込んだり下げたりして乗らない。
車輪に巻き込んだり、人や物にぶつけて事故や転倒によるケガの恐れがあります。

かかとの高い靴や、滑りやすい靴を履いて乗らない。
足がペダルから外れて、転倒によるケガの恐れがあります。

二人乗りは禁止。
※6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合や幼児二人同乗用自転車を除く

雨・風・雪のひどいときは、乗らない。
バランスをくずし、転倒によるケガの恐れがあります。

夜の無灯火での運転は交通違反です。視界が悪い時（夜間、トンネル内、霧など）はライトをつけて走行してください。前照灯が故障していたり、リフレクターが破損あるいは汚れている場合は自転車を押して歩いてください。



禁止

走行中に手や足で前照灯の角度調整はしない。
※停止した状態で、前照灯の角度を調整してください。
前方不注意となり、転倒や衝突・手足が車輪に巻き込まれケガをする恐れがあります。

合図以外は、ハンドルから手をはなさない。
バランスがとりにくく、転倒によるケガの恐れがあります。

スポークの間にボール（固形物）などを入れて走らない。
車輪に巻き込まれて、転倒によるケガの恐れがあります。

自転車を走行以外の目的で使用しない。
腰掛けや踏み台などの目的外のことで使わないでください。

改造や分解はしない。
部品の破損などによって、外れて転倒や衝突によるケガの恐れがあります。

ブレーキパッド、タイヤ、リムには注油しないこと。
ブレーキが効かなくなり、衝突によるケガの恐れがあります。



 警 告

 禁止	走行中は電源スイッチ、アシストモードスイッチ、ライトスイッチの操作をしない。 前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 必ず停車した状態で操作してください。
	走行中に残量表示ランプ等を注視しない。 表示に気を取られ、前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。
	飲酒運転は禁止。
	ヘッドフォンを使用しながら、傘を差しながら、携帯電話・スマートフォンを使用しながら の運転はしない。かぜ薬などを服用してるとき、また体調が悪いときは乗らない。
	水洗いはしない。 浸水により電気部品や配線の絶縁が劣化して、漏電など故障の原因になります。

安全上のご注意（バッテリー・充電器）

⚠ 危険

 強制	アシスト自転車専用バッテリーです。他の機種・機器・用途には使用しない。液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	バッテリーを充電する場合は専用の充電器を使用する。 他の充電器を使用すると、発火・異常発熱・故障・破裂の恐れがあります。
	バッテリー液が衣類や皮膚に付着したときは、ただちにきれいな水で洗いながす。バッテリー液が目に入った時は、こすらずきれいな水で十分洗いながし、ただちに医師の治療を受ける。失明の恐れがあります。
 禁止	バッテリーに衝撃を与えたり、分解や改造はしない。 ケースの破損、感電、液漏れ、異常発熱、破裂、の原因になります。
	充電器の分解・改造や端子間のショートはしない。感電、発火、異常発熱の恐れがあります。
	直射日光の当たる場所、室温が35℃以上の場所、湿度の高い場所では充電しないこと。 充電器は屋内専用です。野外では使用しないこと。異常発熱を引き起こす原因になります。
	火のそばなど高温の場所での充電・使用・放置はしない。自転車本体からバッテリーを外して充電してください。液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	バッテリーを火中に入れたり、過熱をしない。液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	端子（+-）に金属などを接触させない。感電や液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	充電中は、同じ箇所を長時間皮膚に触れさせない。 温度が40℃～70℃になる場合があります、低温やけどの恐れがあります。

⚠ 警告

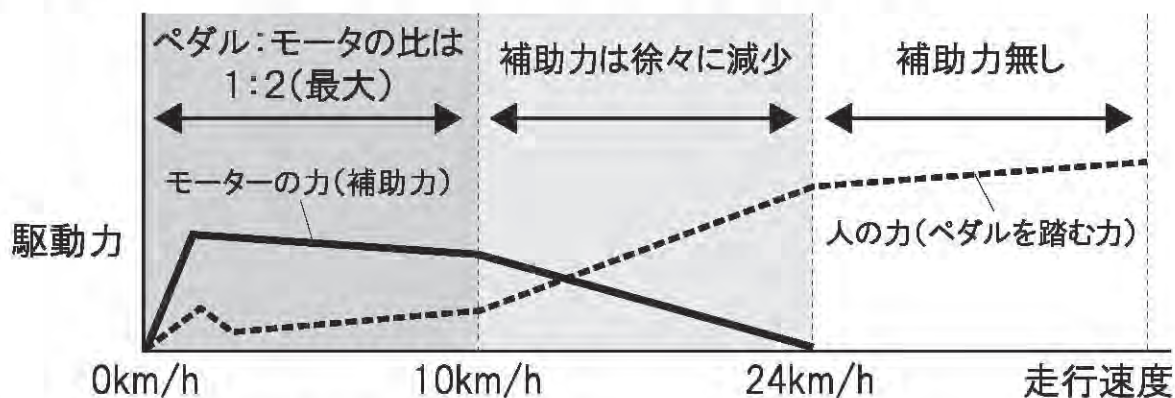
 強制	電源プラグは根元まで差し込む。不完全な差し込みだと、感電や発熱による火災の原因となります。また、充電時以外はコンセントの接続を外すこと。
	電源プラグや充電端子についたほこりなどは取り除き、油などは付着しないようにする。 感電や発火の恐れがあります。
	充電器のケース・コードやプラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。感電、発火、異常発熱の恐れがあります。
 禁止	損傷したバッテリー・充電器は使用しない。異常発熱や破裂の恐れがあります。破損したまま使用すると液漏れの恐れがあり、目に入った場合は失明する恐れがあります。
	幼児、ペットなどが触れる可能性がある場所には放置しない。
	充電中は充電器とバッテリーは5 cm以上の間隔をあげ、覆い等で空気循環を妨げないこと。 発熱して、火災の恐れがあります。
	充電器本体に、電源コードを巻きつけて保管しない。感電、故障、火災の原因になります。 電源プラグをぬれた手で抜き差ししない。感電する恐れがあります。

電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車は普通の自転車と異なり、ペダルアシスト付きの自転車です。
電動アシスト自転車についての正しい知識を身につけましょう。

●ペダルアシストとは

人がペダルを踏む力に応じて、モーターの補助力を加えて走行を助ける機能です。



下記のようなときはペダルアシストが働きません。

- 速度が24km/h以上のとき。速度が24kmに近づくとき補助力は徐々に減少していきます。
- ペダルを踏む力が弱いとき。
- ペダルの回転を止めているとき。
- ブレーキレバーを握ったとき。(断電ブレーキ搭載車種に限る)
- バッテリー残量が少なくなったとき。

※バッテリー残量が少なくなるとペダルアシストは働きませんが、普通の自転車として走行できます。

走行できる距離の目安・・・別紙の自転車仕様書をご確認ください。

バッテリー充電時間の目安・・・

バッテリーの容量	充電時間
4.0 Ah	約2時間20分
5.8 Ah	約3時間30分
8.5 Ah	約5時間

- バッテリー本体の残量表示ランプが1つになってから充電した場合の時間です。
- また充電前のバッテリー状態や充電環境温度などにより異なります。
- ご購入後、はじめての充電は多少充電時間が長くなる場合があります。
- バッテリーの取扱い説明(P29)をよくお読みのうえご使用ください。

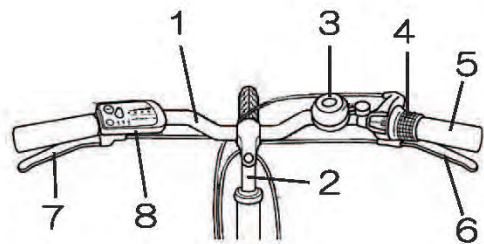
自転車各部のなまえ

画像で説明する自転車は各車種の代表モデルです。
ご購入いただいた自転車とは仕様が異なる場合があります。

軽快車・折りたたみ軽快車



※折りたたみ軽快車については下部折りたたみ車もいっしょにご確認ください



折りたたみ車



スポーツ車



1	ハンドル
2	ハンドルステム
3	ベル
4	グリップシフト
5	グリップ
6	前ブレーキレバー
7	後ブレーキレバー
8	操作パネル
9	フレーム
10	Fフォーク
11	ブレーキワイヤー / 配線
12	カゴ
13	ブレーキ
14	ライト
15	タイヤ
16	リム
17	空気バルブ
18	モーター
19	ペダル
20	ギヤクランク
21	チェーンケース
22	チェーン
23	スポーク
24	スタンド
25	泥除け
26	後リフレクター
27	サークル錠
28	後キャリア
29	ドレスガード
30	サドル
31	シートポスト
32	バッテリー
33	折りたたみレバー

自転車の組み立て 軽快車・折りたたみ軽快車

自転車本体を箱から出し、梱包材をすべて取り外してください。

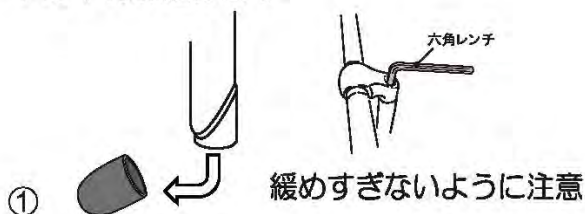
折りたたみ自転車の場合は、本体の組み立てから行ってください。本体の組み立て方法については、9ページをご覧ください。このページでは、本体組み立て後のハンドル組み立て方法についてご説明します。

※画像は代表モデルです。お買い求めいただいた自転車とは仕様が異なる場合があります。

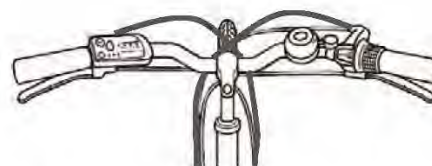
※手や指をはさんでケガをしないようにお気を付けください。

1 - 本体の組み立て・・・9ページをご覧ください。

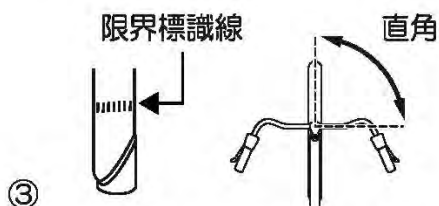
2 - ハンドルの組み立て



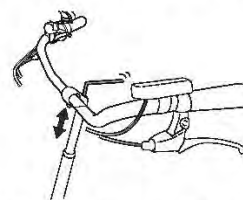
緩衝材やハンドルポスト先端のキャップを外します。キャップはハンドル上部のねじを緩めて取り外してください。



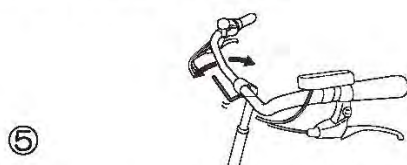
ハンドルを本体に差し込みます。
このとき、左右の配線がカゴブラケットの上で交差するようにします。配線がねじれたりしていないことを確認してください。



ハンドルの高さは限界標識線が見えない位置で調整してください。角度はタイヤと直角になるように調整します。



高さを調整したあと、六角レンチを使ってハンドルを確実に固定してください。固定したあと、ガタつきがないか確認してください。



ハンドルバーの角度を調整する場合は、ステム下のボルトを緩めて調整してください。調整後はボルトを締めなおして、確実に固定してください。



取扱説明書の袋の中にステムキャップが同梱されている場合は、ステムの上部ねじ穴にはめ込み装着します。

 警告	各部の固定を適正に行わないでご使用されると、事故につながる恐れがあります。点検をしていない自転車には乗車しないでください。
 注意	ハンドルに“ガタつき”や“ふらつき”、その他異常を確認した場合は、ただちに使用をやめて、自転車店などにご相談ください。
 強制	組み立て後は、自転車店などで必ず初期点検を行ってください。点検を怠った場合、品質保証を受けれない場合があります。

自転車の組み立て 折りたたみ車

自転車本体を箱から出し、梱包材をすべて取り外してください。

折りたたみ自転車は、フレームの組み立てから行ってください。

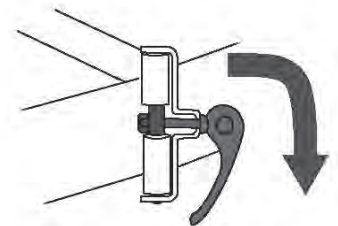
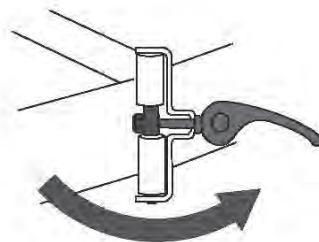
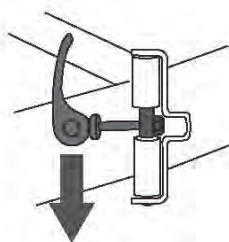
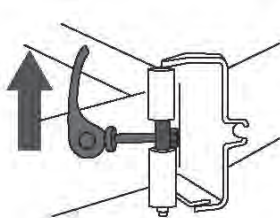
※画像は代表モデルです。お買い求めいただいた自転車とは仕様が異なる場合があります。

※折りたたむ場合は逆の手順で行ってください。

※手や指をはさんでケガをしないようにお気を付けください。

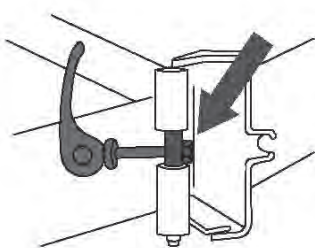
1 - 本体の組み立て

折りたたまれているフレームを開き、スタンドを立て安定させます。



レバーを引き上げながら前後のフレームを密着させます。正しくセットされるとレバーが下にさがりロックされます。

レバーを車体前方に移動させます。移動させたあと、レバーを下方に押し倒して固定します。倒したあと、手・指にレバーのあとが残るくらいが適正です。最後にしっかり固定できていることを確認してください。



●レバー調整のしかた

レバーを倒すのが固い、またはゆるい場合は、レバー先端についているナットで調整することができます。

固定がゆるいと大変危険です。

ナットを強く締めすぎても部品の破損につながる恐れがあります。

ご自身で調整が難しいときは自転車店などにご相談ください。



本体下部についている樹脂プレートは輸送時の保護カバーです。取り外してご使用ください。



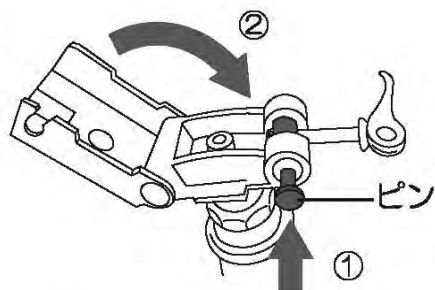
注意

乗車するときは必ずレバーがしっかり固定されていることを毎回確認してください。固定がゆるいと、乗車中にフレームが開いて事故につながる恐れがあります。適正に組み立てができないときはお近くの自転車店などにご相談ください。走行中にガタつきを感じたときは、使用をやめて点検を行ってください。

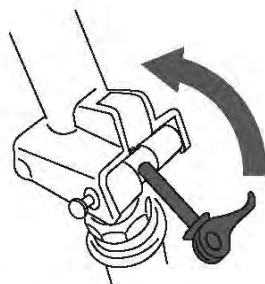
2- ハンドルの組み立て

折りたたまれているハンドルを起し立ち上げます。

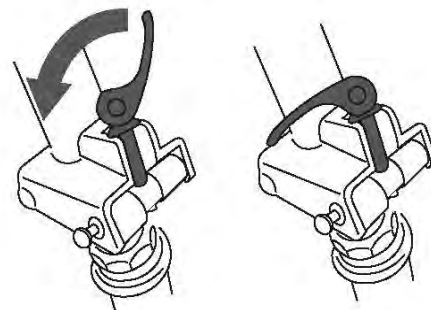
※ハンドルの高さ調整はできません。



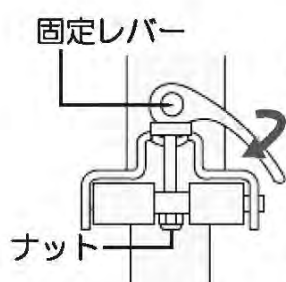
ピンを押しながらハンドルを立ち上げ上下を密着させます。正しくセットされるとロックされます。



レバーを持ち上げ、ハンドルに沿うように設置します。



レバーをハンドルに沿うように押し倒して固定します。倒したあと、手・指にあとが残るくらいが適正です。



●レバー調整のしかた

レバーを倒すのが固い、またはゆるい場合は、レバー先端についているナットで調整することができます。

固定がゆるいと大変危険です。ナットを強く締めすぎても部品の破損につながる恐れがあります。ご自身で調整が難しいときは自転車店などにご相談ください。



※ハンドルの向き・ワイヤー類の取回しに注意してください

ハンドル周辺のワイヤー類が車体やワイヤー同士等で絡み合わないようご注意ください。ワイヤー類が絡んでいるとハンドルの操作性・ブレーキの制動性に悪影響をあたえるため大変危険です。また、操作パネルやライトの配線が断線する原因となります。



注意

乗車するときは毎回必ずレバーがしっかり固定されていることを確認してください。固定がゆるいと乗車中にハンドルが折れて事故につながる恐れがあります。組み立て時は、配線の取り回しに注意してください。配線がねじれていたり、ハンドルに巻きついている場合は乗車しないでください。走行中にガタつきを感じたときは、使用をやめて点検を行ってください。

自転車の組み立て スポーツ車

自転車本体を箱から出し、梱包材をすべて取り外してください。

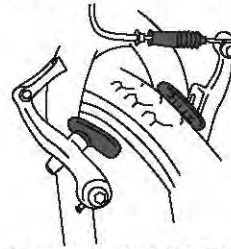
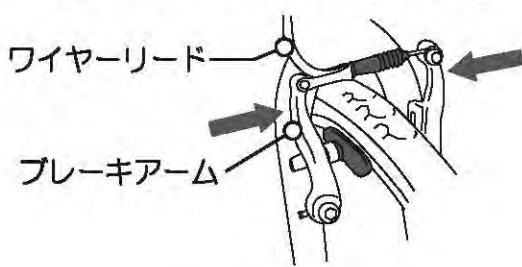
※画像は代表モデルです。お買い求めいただいた自転車とは仕様が異なる場合があります。

※手や指をはさんでケガをしないようにお気を付けください。

1 - 前輪の組み付け

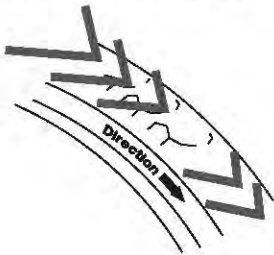
●Vブレーキを解放します。

ブレーキアームを左右から握りながら、ワイヤーリードを外側に引っ張り上に持ち上げ解放します。



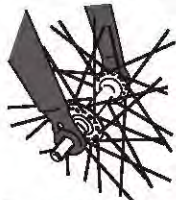
解放後は左右のアームが外側に大きく広がります

●組み付ける車輪の方向を確認します。



タイヤの側面に矢印で進行方向が記載されています。矢印が自転車進行方向に向くように組み付けます。タイヤの種類によっては矢印が記載されていないことがあります。その場合は、タイヤ表面のブロックパターンで進行方向を確認することができます。組み付けた時に、表面ブロックがタイヤ中心から外側後方に流れるようにします。

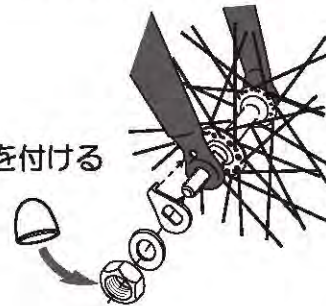
●車輪をFフォークに組み付けます。



①

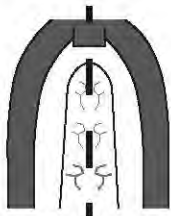
車体を持ち上げ、車輪の軸の上にFフォークの爪部をかけます。※爪部の奥まで車輪の軸が差し込まれていることを確認してください。

最後にキャップを付ける



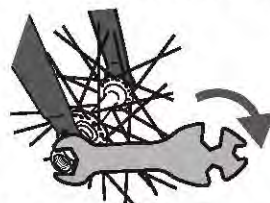
②

外側から“ナット→ワッシャー→爪ワッシャー→Fフォーク→車輪軸”の順番になっていることを確認してください。爪ワッシャーの爪部はFフォーク側の穴に入るように設置してください。



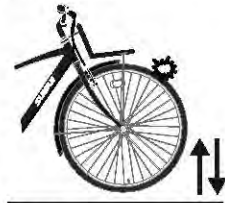
③

タイヤがFフォークの中心に位置するように調整をしながら車輪を固定します。



④

付属する簡易工具を使用して左右のナットを締め付けます。タイヤがFフォークの中心に位置するように調整をしながら締め付け作業を行ってください。



⑤

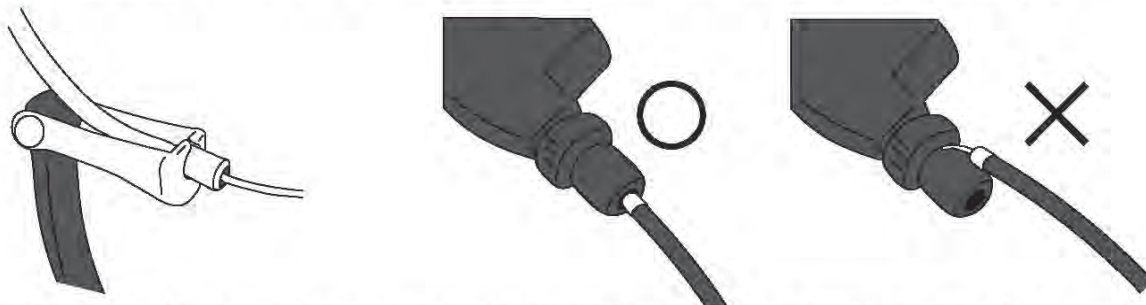
固定後は前輪を3cm程度持ち上げ、車輪を叩いたり、そのまま地面に落としたりして、車輪がずれたり、がたついていないかを確認してください。

●Vブレーキの組み付けなおし

車輪を組み付けた後は、はじめに解放したブレーキを元に戻してください。

ワイヤーリードの先端が、アーム側の引っ掛け部にしっかりはめ込んであることを確認してください。

ワイヤーリード上部とブレーキレバー側でも、ワイヤーが外れていないか確認してください。



※ブレーキの調整は生産時に行っていますが、前輪を組み付けた後に再調整が必要になることがあります。これはVブレーキの特性によるもので、また輸送中の振動等で組み付け等に緩みが生じることがあるためです。



警告

- 簡易工具で適正なトルクによる車輪の締め付け固定は困難です。
- 調整と締め付けが適正でない場合、車輪の固定が緩んだり外れたりすることがあり大変危険です。
- 組み付け後はブレーキ等の再調整が必要になることがあります。
- 組み付け後は、必ずお近くの自転車店等で点検を行ってください。
- ガタつき異音等を確認した場合は、直ちに使用を中止して点検を行ってください。

2 - ハンドルバーの組み付け

●六角レンチを使ってステムのボルトを緩ませ、クランプを取り外します。

●ハンドルバーをステムに取り付けます。ハンドルバーの中心部をステムにあて、外したクランプを上からかぶせてボルトを軽く締め付けます。

※このとき、ボルトは強く締めないでください。この後、ハンドルバーの位置・角度調整を行います。調整ができる程度にボルトを均等に締め付けましょう。

●ハンドルバーの位置を調整します。ハンドルバーには固定位置の目安になる横線が印されています。この横線がステムの中心にくるように調整してください。

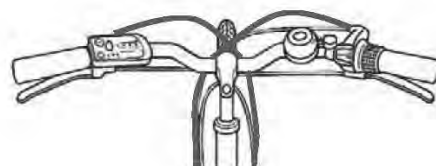
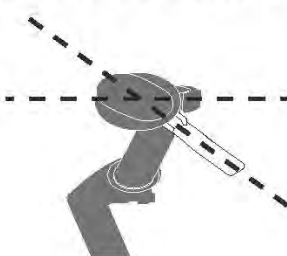
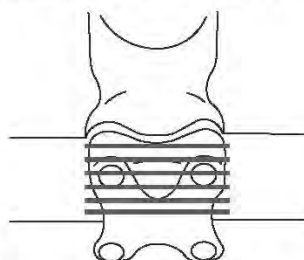
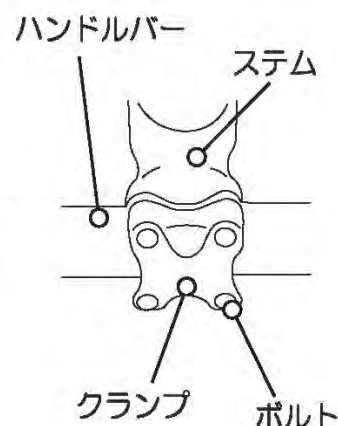
●ハンドルバーの角度を調整します。

角度はブレーキレバーの角度を目安にお好みの角度で設定してください。

※極端にブレーキの角度が高すぎる・低すぎる場合は、操作性が悪くなることがあります。ご注意ください。

※左右の配線がよじれていたり、ハンドルバーに巻き付いている場合は組み付けが誤っています。

配線の断線・ブレーキ操作に影響しますので、再度組み付けを行ってください。

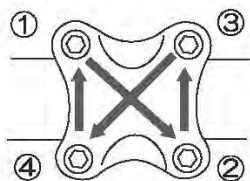


●ハンドルバーを固定します。

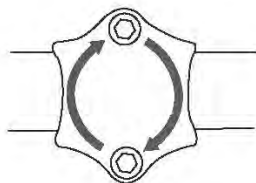
ステムのボルトを六角レンチを使って、上下左右交互に少しずつ締め付けていきます。

ステム本体とクランプの間隔が上下均等になるように締め付けます。

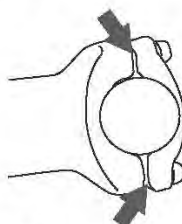
※一箇所のボルトだけを一度に締め付けると適正に固定できません。走行中にハンドルバーが回転するなど重大事故につながる可能性があります。必ず確実に固定してください。



※上下左右交互に少しずつ締め付ける

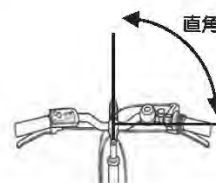


※ステム本体とクランプの間隔が上下均等になっていることを確認する



●ハンドル・ハンドルステムが適正に固定されているか確認しましょう。

ハンドルとタイヤが直角になっていること、強くブレーキをかけながらハンドルを前後に動作させたときにガタつきがないことを確認してください。



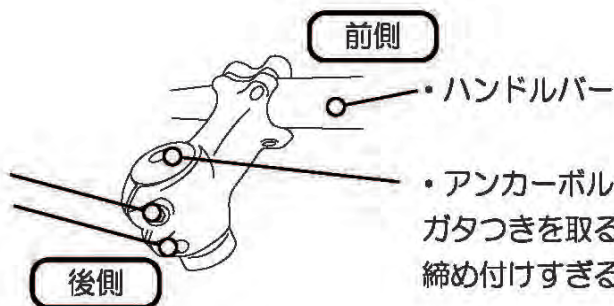
強制

組み付け後は、必ずお近くの自転車店にて点検を行ってください。

3- ハンドルステムの調整

・ クランプボルト

六角レンチを使い、上下交互に均等な力で締め付けてください。

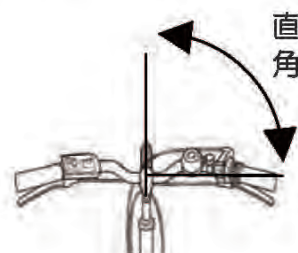


・ アンカーボルト

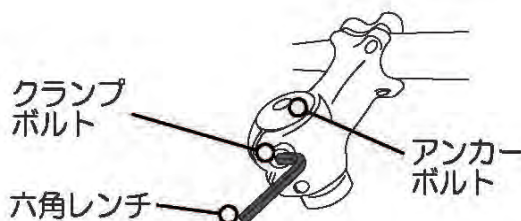
ガタつきを取るための調整ねじです。締め付けすぎると破損してしまいます

- ①付属の六角レンチを使用して2本のクランプボルトをゆるめ、横向きに固定されているハンドルステムの位置をハンドルバーとタイヤが直角になるように調整します。

※ブレーキワイヤー等がハンドルやフレームに絡まないように取り付けてください。



- ②上下2本のクランプボルトを交互に締め付けハンドルステムを固定します。



- ③上下のボルトは均等に締め付けてください。



- ④ハンドルが確実に固定されているか、ガタつきがないか確認してください。ガタつきがある場合は、クランプボルトをゆるめた状態にしてから、アンカーボルトを締め込んで調整してください。



注意

- ・ 上下のクランプボルトは均一に締め付けてください。締め付けにバラつきがあると、確実に固定できません。事故につながる恐れがありますので注意してください。
- ・ ステムを固定するためのねじはクランプボルトです。上部にあるアンカーボルトは、ガタつきを確認したときのみ使用するねじです。
- ・ アンカーボルトの調整は、クランプボルトをゆるめてから行ってください。
- ・ アンカーボルトは締め付けすぎると破損してしまう恐れがあります。破損はした際は保証対象外となりますので、注意してください。
- ・ 組み付け後は、必ずご購入店またはお近くの自転車店にて点検を行ってください。

自転車の組み立て 全車種共通

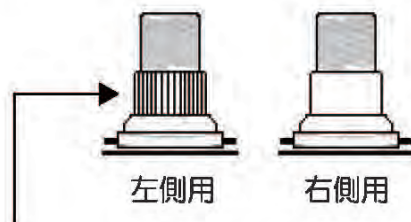
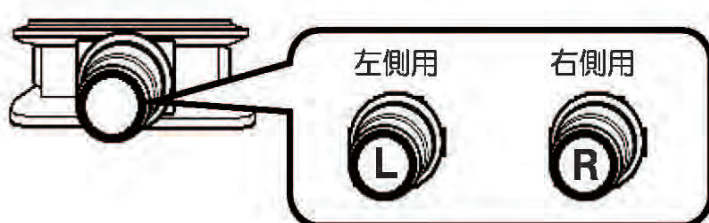
1 - ペダルの取り付け

ペダルには、右側用（R）と左側用（L）があります。

左右を間違えて無理に取り付けるとネジ山が破損することがありますので必ず正しく装着してください。

ペダルの軸の端面に「R」（右側用）、「L」（左側用）の刻印があることを確認してください。

（左側用の軸にはギザギザのきざみがありますので確認してください。）



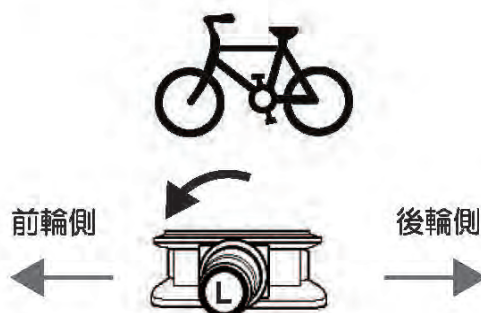
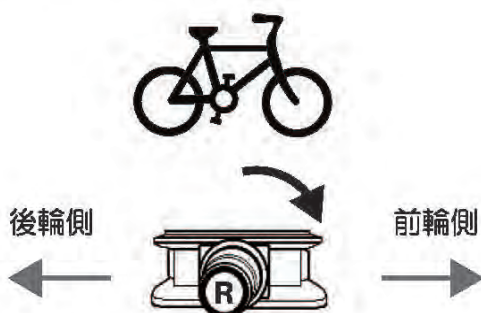
ペダル軸にきざみがあるのが左側用ペダル

●右側ペダルの取り付け

右回し（時計回り）にペダル軸を回してください。
ペダル本体を回しても取り付けることはできません。
軸だけを回してください。

●左側ペダルの取り付け

左回し（反時計回り）にペダル軸を回してください。
ペダル本体を回しても取り付けることはできません。
軸だけを回してください。



はじめに手でねじ込めるところまで固定してください。ペダルがクランクにまっすぐ入っていることを確認してから、付属の工具で最後まで確実に固定してください。最後にガタつき等がないか確認をしてください。



注意

ペダルを無理矢理クランクにねじ込まないでください。無理矢理ねじ込むとクランクが破損し、走行中にペダルが脱落する可能性があります。事故・ケガにつながり大変危険なうえ、破損したクランクは交換が必要になることがあります。

※誤った取り付けによる部品の破損は保証の対象外となりますのでご注意ください。

※取り付け後にバリが生じた場合は、必ず取り除いてください。

2 - カゴの取り付け

●付属品の確認

カゴ下側（底面）の部品	ねじ / 2 本 	底板プレート / 1 枚 	ワッシャー / 2 枚 
カゴ側面（ハンドル側）の部品	ねじ / 2 本 	ナット / 2 個 	ワッシャー / 2 枚 
	プレート / 1 枚 		
	または		
	ねじ / 2 本 	ナット / 2 個 	ワッシャー / 4 枚 

※車種により付属品が異なる場合があります。

※カゴ取り付け部品が既に自転車に仮止めされているものもあります。

※黒の保護キャップが付属されている場合は、カゴ取り付け後に各ねじの先端に装着してください。

●カゴ下側（底面）の取り付け

底板プレートをカゴ足の下側に添えて、カゴと底板でカゴ足をはさみ、ワッシャーを通したねじをカゴ内側から底板プレートのねじ穴に入れて仮止めします。カゴ足の位置は手で力を加えて調整してください。



※上から順番に ...

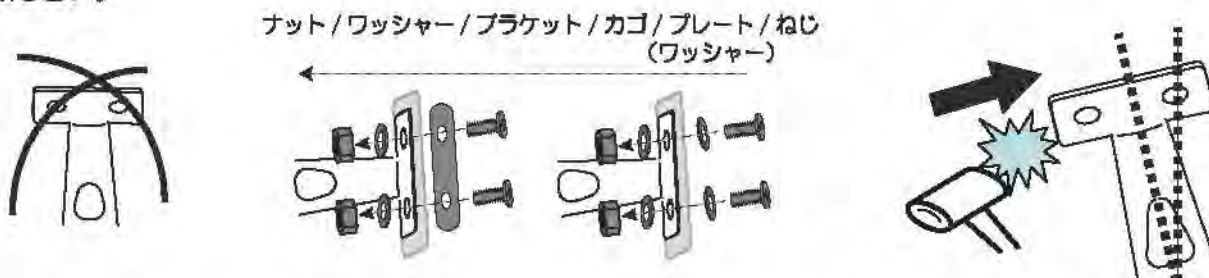
- ・ねじ
- ・ワッシャー
- ・カゴ本体
- ・カゴ足
- ・底板プレート



●カゴ側面（ハンドル側）の取り付け

ハンドルから伸びているワイヤー類をカゴブラケットの上部で交差させて、前カゴを取り付けます。

ワッシャーを通したねじをカゴの内側からブラケットの穴に通し、反対側からワッシャー・ナットを付けて仮止めします。カゴブラケットが曲がっている場合は、当て布をかぶせたハンマー等で叩いて調整してください。



●カゴの位置を調整して本締め

仮止め後、カゴが水平になるようにカゴの角度とカゴ足の位置を調整して本締めを行います。

外側からスパナ等でナットを固定し、内側からドライバーでねじを締めて取り付け完了です。

黒色のキャップが付属されている場合は、本締めした後に、ねじ・ナットの先端に装着してください。

キャップは必ずしも装着するものではありません。

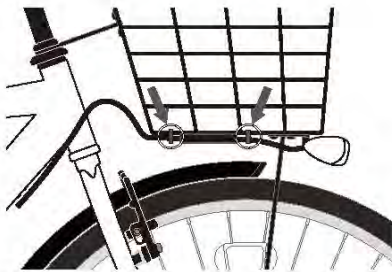
 : 底面ねじ用

 : 側面ナット用

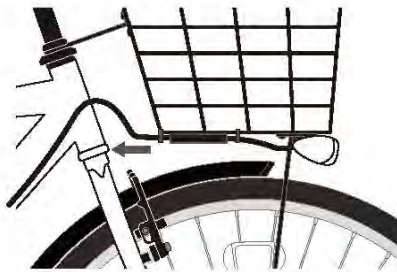
●ライト配線の固定（底面プレートにライトが装着されている自転車）

付属されている結束バンドを使って、カゴ底面にライトの配線を固定してください。

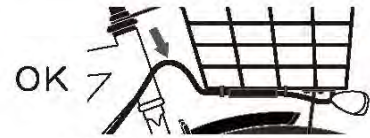
配線は後方部に余裕をもたせてください。ライト側の前方部に配線が集中するとハンドルを回転させたときにライトの配線が断線することがありますので注意してください。



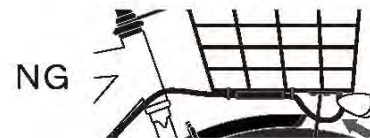
2カ所を結束バンドで固定



配線は後方に引っ張る



OK
後方に配線を余らす



NG
配線が前方によっている



注意

ライトの配線は必ずカゴに固定してください。固定しないで使用されると、車輪に巻き込まれる可能性があり大変危険です。
配線は後方に張った状態で固定し、後方に余裕を持たせてください。
装着方法を誤ると、配線の断線につながります。

幼児用座席の取り付けについて

- 幼児用座席を取り付ける際に、必ずご確認ください。
 - ・ 自転車に幼児用座席を取り付けるときは、本取扱説明書および幼児用座席の取扱説明書の指示に従ってください。
 - ・ 自転車に乗せることのできるお子様は一人です。
 - ・ 幼児用座席を取り付ける際は、お子様の足が車輪に巻き込まれないように、ガードが付いていることをご確認ください。
 - ・ 幼児用座席の取り付けは販売店にご依頼ください。
 - ・ お子様の体重と幼児用座席の重量の合計が 27kg 以下であることをご確認ください。
-
- 幼児用座席のご使用の際に、必ずお守りください。
 - ・ お子様の安全についてはとくにご注意ください。お子様から目を離さないでください。
 - ・ お子様の体重が、幼児用座席が指定する最大適用体重以下であることをご確認ください。
 - ・ 走行中はお子様に自転車用ヘルメット（JIS T8134 と同等以上）を着用させてください。
 - ・ ご使用の際は、必ず幼児用座席が後荷台などに、確実に固定されていることをご確認ください。
 - ・ 幼児用座席にお子様を乗せるときは、必ずスタンドのロックが確実にかかっていることをご確認ください。
 - ・ お子様を乗せたまま、自転車から離れないでください。
 - ・ ご使用の際は、必ずシートベルトを着用してください。
 - ・ お子様自転車の回転部や作動部にさわらないように十分ご注意ください。
 - ・ お子様、自転車の近くにいるときは、お子様から目を離さないでください。

ハンドルロック（くるピタ）の操作説明

- 幼児用座席取り付け推奨車種には、ハンドル部にハンドルロック機能が装備されています。
駐輪する際やお子様を自転車に乗せ降ろしする際にご使用ください。
安全機能として備わっていますが、ご使用方法を誤ると大変危険です。操作方法を十分にご理解ください。

1 - ロックの解除方法

- ・ ハンドルロック装置はハンドルの下に装着されています。
- ・ 赤い丸印を“まわる”と青色で記載されている方向（時計回り）に回してロックを解除します。
- ・ 赤い丸印が下部に位置（正面に位置）していることを確認してください。

2 - ロックの方法

- ・ 赤い丸印を“とまる”と赤色で記載されている方向（反時計回り）に回らなくなるまで回してください。
- ・ 赤い丸印が回らない・回ってもハンドルがロックされない場合は、ハンドルを左右に少し動かしながら、もう一度回してください。



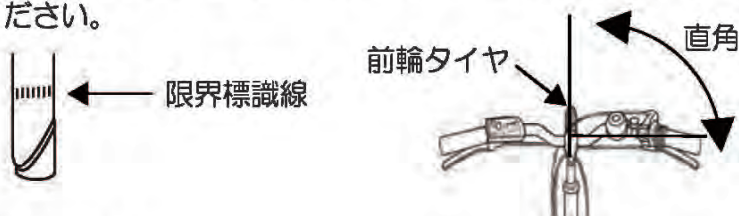
注意

ロックを解除した後は、ハンドルがスムーズに動作するか必ず確認してください。動作に引っ掛かりが確認される場合は解除操作をもう一度やり直してください。改善されない場合は販売店もしくはお近くの自転車店にご相談ください。

お乗りになるまえの 点検と調整

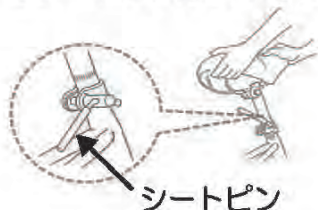
1 - ハンドルの点検

ハンドルの高さ・角度が適正か確認してください。また、ハンドルステムの限界標識線が見えていないことを確認してください。最後に左右のブレーキレバーを強く握り、自転車を前後に動かしガタつきがないか確認してください。また、ハンドルが前輪に対して90度（直角）になっているか確認してください。
※ハンドルの点検と調整はとても重要です。異常を感じた場合は直ちに使用を中止し、お近くの自転車店等にて点検を行ってください。



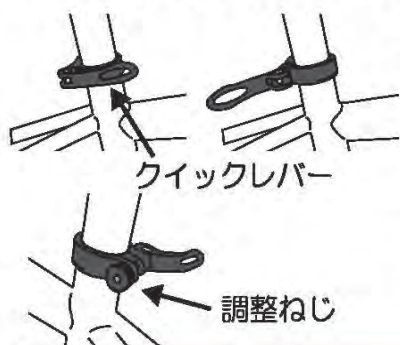
2 - サドルの高さ調整と固定確認

●シートピン形状の場合



シートピンを左回し（反時計回り）に回してゆるめます。
高さを調整したあと、シートピンを右回しに（時計回り）に回して固定します。
固定したあとは、シートピンを走行に支障がないようにフレーム側に倒してください。

●クイックレバー形状の場合



クイックレバーを起こし上げてサドルの高さを調整します。高さを調整したあとはクイックレバーを元の位置に倒して固定します。クイックレバーを倒したあと、手もしくは指にレバーの跡が残るくらいが適正な固定です。固すぎるもしくはゆるすぎる場合はレバー反対側のねじを回して調整してください。

※クイックレバーは必ずフレームに沿うようにして倒してください。



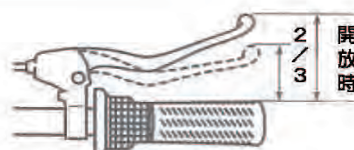
注意

サドルの高さは限界標識線が見えない範囲で調整をしてください。限界標識線が見えた状態で乗車すると破損の原因となり、事故・ケガに繋がる可能性があります。また、両足先が地面につくように調整をしてください。乗車する際には毎回、サドルを上下左右に動かして確実に固定されていることを確認してください。ガタつき・ゆるみがある場合は、再度締め付け固定を行ってください。



3 - 前後ブレーキレバーの握りしろ

ブレーキレバーが開放時から約2/3の位置で、ブレーキが効きはじめることを点検してください。



4 - ライトの装備・点灯の確認

汚れ・破損がないか、またライトが点灯するか点検してください。

車種によってはライトが標準装備されていないことがあります。夕方以降・夜間・暗い環境でご使用される場合は、あらかじめお客様ご自身でライトをご用意ください。

5 - 前後車軸の固定点検

前後のタイヤをゆすり、ガタつきがないか点検してください。

輸送中の振動によって固定がゆるむことがあります。ご購入後は必ず締め付け点検を行ってからご使用ください。また、乗車中の振動によっても固定はゆるみます。必ず定期点検を行ってください。

6 - ペダルの固定点検

ペダルをゆすりガタつきがないか、スムーズに回転するか、異音がないか点検をしてください。

7 - チェーンの張り点検

チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～25mmあれば適正です。チェーンは張りすぎていても破損に繋がる可能性があり、ゆるすぎてもチェーンが脱落する原因となります。とくに新品の自転車はチェーンが伸びやすいため、ご使用開始から2カ月を目安に点検調整を行ってください。



8 - ベルの動作点検

ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検してください。



9 - 前後タイヤの摩耗・劣化の点検

タイヤの表面が擦り減っていないか、タイヤに釘などがささっていないか点検してください。擦り減りやひび割れがひどい場合は、パンクしやすい状態です。タイヤ・チューブの交換を行ってください。



10 - ホイールリフレクタ、後リフレクタの点検

汚れ、損傷がないか点検してください。汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。

11 - 各部ねじの締め付け点検

ゆるみがある場合には、ドライバーやスパナ等で締め付けを行ってください。

12 - バッテリーの取付・残量の状態確認

確実に取り付けられているか、取り付け後ガタつきがないか点検してください。また、バッテリー残量が十分にあるか確認してください。

点検で異常があった場合、部品の変形などの異常があった場合、異音や違和感を感じた場合は、乗車しないでお近くの自転車販売店又はサポートセンターまでご相談ください。

交通ルールについて

警告

2015 年 6 月より改正道路交通法が施行されました。
違反すると、罰則を受けることがあります。自転車は道路交通法上、軽車両として扱われます。道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかわからないよう交通ルールを必ず守り、安全に正しく乗りましょう。

1 - 発進のしかた

見通しのいい場所で、周囲を確認してから発進しましょう。

2 - 走行する場所

- 車道のいちばん左側を走るようにしましょう。
- 歩道は歩行者優先です。歩道では車道よりを徐行して走行します。
- 標識に従って走行しましょう。

	歩行者専用 自転車に乗車して通行することは原則できません。自転車から降りて通行しましょう。		自転車及び歩行者専用 自転車と歩行者が通行できる道路です。歩行者を優先し、安全に走行しましょう。
	自転車専用 自転車が通行できる道路です。周囲の状況を常に確認しながら、安全に走行しましょう。		普通自転車専用通行帯 自転車の通行のために、車道の左端に設けられる通行帯です。原則としてこの部分を通行しなければいけません。
	自動車専用 自動車以外の車両は通行できません。事故につながるので絶対に立ち入らないでください。		自転車一方通行 自転車は矢印の示す方向にのみ通行することができます。反対方向からの通行（逆走）はできません。

3 - 交通標識を守りましょう

自転車は道路交通法によって「軽車両」と位置づけられている車両です。
自動車と同様に交通標識を守って走行しましょう。

●一時停止しましょう

一時停止の標識があるときは必ず一旦停止しましょう。

また、狭い道路から大通りに出るとき、横断歩道や踏み切りを渡るとき、歩行者の妨げになるようなときなどは必ず一時停止して安全を確かめてから走行しましょう。



●横断するには

道路を横断したり交差点を渡る場合、近くに自転車横断帯があるときは、そこを通らなければなりません。

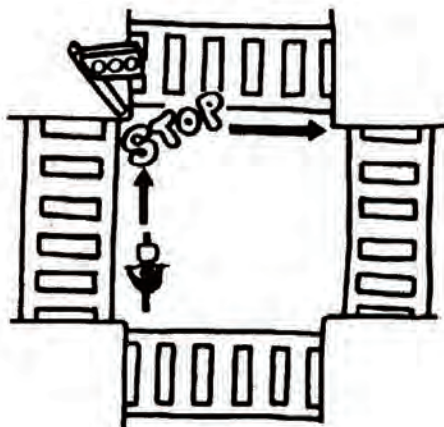
自転車横断帯	横断歩道 自転車横断帯	横断歩道
		
自転車横断帯がある場合には、原則として横断歩道ではなく自転車横断帯を通行しなければなりません。	歩行者は横断歩道を、普通自転車は自転車横断帯を通行しなければなりません。	横断歩道は歩行者優先であるため、横断歩道を渡る歩行者がいる場合には、歩行者が渡りきるまで停止して待たなければなりません。

横断歩道では、一度止まって歩行者を優先させてください。また、自転車が通行可能な歩道を走行するときは徐行し、歩行者の妨げにならないよう気を配りましょう。

4 - 交差点の通りかた

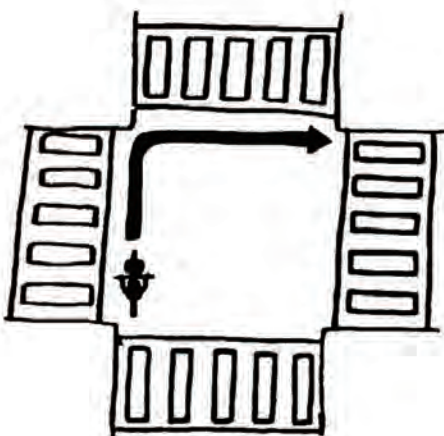
●信号のある交差点では

正面の信号が青のとき、直進と左折ができます。右折の場合は、交差点の向こうまでまっすぐ進み、一度止まって曲がる方向の信号が青になってから進みます。



●信号のない交差点では

左折するときは、後方に注意しながら早めに合図をし、できるだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。右折するときは、できるだけ左によって交差点の向こう側までまっすぐ進み、十分スピードを落としてから曲がりましょう。



5 - 周囲の安全確認

交差点は事故が起こりやすいところです。周囲を十分に確認して安全を確保してから横断しましょう。
また、車の左折時に巻き込まれる事故が多発しています。車からの死角は数多くあります。危険と感じたときは、無理しないことがとても重要です。

●子どもの飛び出しに注意しましょう。

つぎの道路標識が表示されている近くには学校、幼稚園、保育所等があります。徐行運転して、子供の飛び出しなどに気を付けましょう。



6 - 危険行為はやめましょう

- 信号無視
- 指定場所の一時不停止
- 遮断踏切への侵入
- 通行禁止違反
- 歩道における車両義務違反（徐行違反）
- 歩道通行時の通行方法違反
- 通行区分違反
- 路側帯通行時の歩行者の通行妨害
- 交差点安全進行義務違反
- 交差点優先者妨害等
- 環状交差点安全進行義務違反等
- 制御装置（ブレーキ）不良自転車運転
- 安全運転義務違反
- 酒酔い運転
- 妨害運転

※上記の危険行為をくり返すと、自転車運転者講習を命ぜられることがあります。

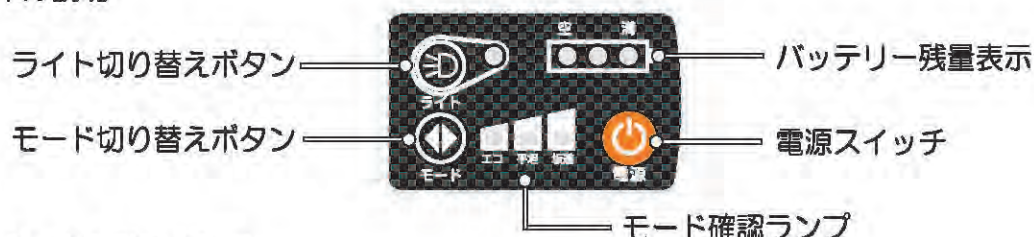
その他の危険運転

- スピード超過
- イヤホンを装着して走行
- 2人乗り走行
- 逆走
- 夜間無灯火走行
- ながら運転（スマホ操作）

電源操作

●ハンドルに操作パネルが装備されている車種

1 - 操作パネル説明



2 - 電源スイッチのオン / オフ

電源スイッチ（オン / オフスイッチ）を押すと、電源が入りランプが点灯します。

※ペダルを踏まずに電源を入れてください。起動時はバッテリー残量ランプが点滅し、2秒後に点灯に切り替わります。ランプが点滅している間はトルクセンサーの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。自転車を4分間以上動かさなかった場合は、自動で電源が切れる仕様となっています。

3 - 操作パネル バッテリー残量表示

下表のようにバッテリー残量の目安を表示します。お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、アシスト走行できる距離の目安としてください。

残量ランプ表示	バッテリー残量	目安
	3つのランプが点灯 51～100%	アシスト走行が十分に可能です
	2つのランプが点灯 26～50%	走行状況によって アシスト力が弱くなります
	1つのランプが点灯 10～25%	充電してください
	ランプが点滅 0～9%	アシスト走行はできません

残量表示ランプが消灯していく間隔は、バッテリーの状態・走りかた・道路状況などにより異なります。走行中残量表示ランプが減り、停止中に点灯表示が戻ることはありますが、故障ではありません。

4 - アシストモード

エコ（低）モード	「アシスト力」を抑え、効率良く走りたい場合におすすめ ペダルを踏む力が少なくてもよい場合など、アシスト力を抑え節電走行します。
平坦（中）モード	平地中心に一定のアシスト力で走りたい場合におすすめ 広範囲にお使いいただける標準的なアシストモードです。
坂道（高）モード	坂道など力強いアシスト力で走りたい場合におすすめ 上り坂など力強いアシスト力が必要なときは、より楽に走行できますが電力の消費量は多くなり走行距離は短くなります。坂道のときにご使用ください。

●ハンドルに操作パネルが装備されていない車種（バッテリー本体 電源スイッチ）

1 - バッテリー本体パネル説明



2 - 電源スイッチのオン / オフ

電源スイッチ（オン / オフスイッチ）を 2 秒間押すと、電源の切り替えができます。

電源が入っているときは、スイッチ上部のランプが赤く点灯します。

※自転車本体にバッテリーを装着しないと電源スイッチは作動しません。電源スイッチの操作は自転車から降りて行ってください。また、必ず電源を切ってから自転車本体からバッテリーを取り外してください。自転車を 4 分間以上動かさなかった場合は、自動で電源が切れる仕様となっています。

3 - バッテリー残量表示

バッテリー本体残量表示 P25 をご確認ください。

4 - アシストモード

バッテリー本体で電源を操作する自転車には、アシストモードは備わっていません。

発進のしかた

1 - スタンドを上げてサドルにまたがります。

スタンドはロックレバーを後方に足で押し上げてください。

2 - 安全を確認して発進します。

ハンドルをしっかり握り、前後左右の安全を良く確認してからペダルを踏んで発進してください。

ペダルを踏み込むとペダルアシストが働き前進します。

3 - 注意事項

- ・けんけん乗りはしないでください。
- ※けんけん乗りとは・・・片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた。
- ・ペダルを踏みながら電源を入れると急発進の危険があります。また、トルク感知装置が正常に作動しない場合があります。そのときは、ペダルアシスト力が弱くなることがあります（故障ではありません）ので、必ずペダルに足を乗せていない状態で電源を入れてください。
- ・バッテリーの残量が少ない状態（残量表示 1 点灯状態や点滅）のときに走行すると、走行条件によってはアシストが途中で切れることがあります。バランスを崩して転倒によるケガの恐れがありますのでご注意ください。
- ・夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。走行中電池残量がなくなった場合、ライトも消灯します。

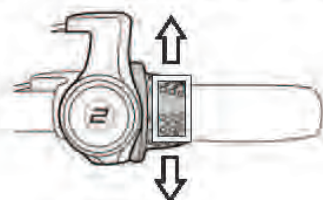
変速機について

ハンドル右側のグリップシフトを回して変速します。

●内装 3 段変速の場合

停止しているときでも変速操作ができます。

※走行中はペダルをこぐのを止めて操作してください。ペダルをこぎながら操作すると後輪軸内部の変速ギアが破損する原因となります。



●外装 6 段変速 / 外装 7 段変速の場合

停止しているときは変速操作はできません。必ず走行中にペダルをこぎながら一段ずつ操作してください。

※下記の操作を行った場合、チェーンの脱落・変速機の破損に繋がる恐れがあります。注意してください。

- ・停止しているとき、またはペダルを止めているときに操作を行い、そのあとペダルをこぎはじめる
- ・ペダルを逆回転させながら操作する
- ・坂道など強くペダルを踏み込んでいるときに操作する
- ・一気に 2 段以上の変速切り替えを行う



製造工場にて検査および各部調整を行い梱包し、お客様のもとにお届けしておりますが、運送時の振動によって再調整が必要になる場合があります。また、ご使用後まもなくでも、初期伸びによって再調整が必要になる場合があります。これらは製品特性上に発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなります。スムーズに変速しない、ペダルに引っかかりを感じる、異音がするなどの異常を感じた場合は、ご購入店舗またはお近くの自転車店にお持ち込みのうえ再調整を実施してください。

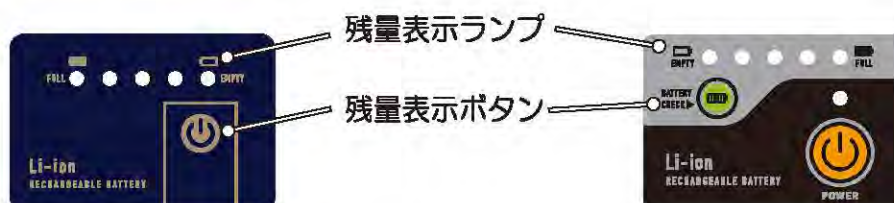
施錠について

ご使用後は必ずカギをかけてください。

- 一部の車種では、カギ本体のロックレバーを左に回しながら（反時計回り）ロックレバーを下げてカギをかける必要があります。
- 車種によっては自転車本体の施錠機能が標準装備されていない場合があります。盗難防止のために、お客様ご自身で自転車用ワイヤー錠等をご用意のうえ、自転車の施錠を行ってください。
- バッテリーキーもしくは自転車本体バッテリー共通キーを 3 本付属しています。紛失しないようにご注意ください。

バッテリー本体残量表示

- バッテリー本体の残量表示ボタンを押すとLED ランプが点灯します。モデルによってボタンの位置は異なります。
- お客様が実際に走行される距離と残量表示ランプの表示状況を確認してご使用ください。
- 残量表示はあくまでも目安です。走行環境・バッテリーの劣化状況によって走行距離は変わります。
- バッテリーのモデルによって、ランプ表示点灯の順番が左右逆転します。下記の表は参考としてご覧ください。



残量ランプ表示	バッテリー残量	目安
	緑のランプが4つ点灯 71～100%	アシスト走行が十分に可能です
	緑のランプが3つ点灯 46～70%	
	緑のランプが2つ点灯 26～45%	そろそろ充電してください アシスト力が徐々に低下する場合があります。
	緑のランプが1つ点灯 10～25%	充電してください アシスト力の低下、動作不安定になることがあります。 また走行環境によっては、電源が切れることがあります。
	赤ランプが点灯 0～9%	充電してください アシスト走行はできません

※バッテリーは自然放電します。長期間使用されずに残量がなくなったときは、保護回路がはたらき電源が入らなくなる場合があります。使用していなくても定期的に充電してください。リチウムイオンバッテリーは継ぎ足し充電をしても劣化は促進されません。残量ランプが点灯していても低残量のまま放置せず、緑ランプ2～3点灯を目安に充電してから保管することをおすすめします。

※冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなる、アシスト力の低下、アシストが不安定になる等の症状がでることがあります。

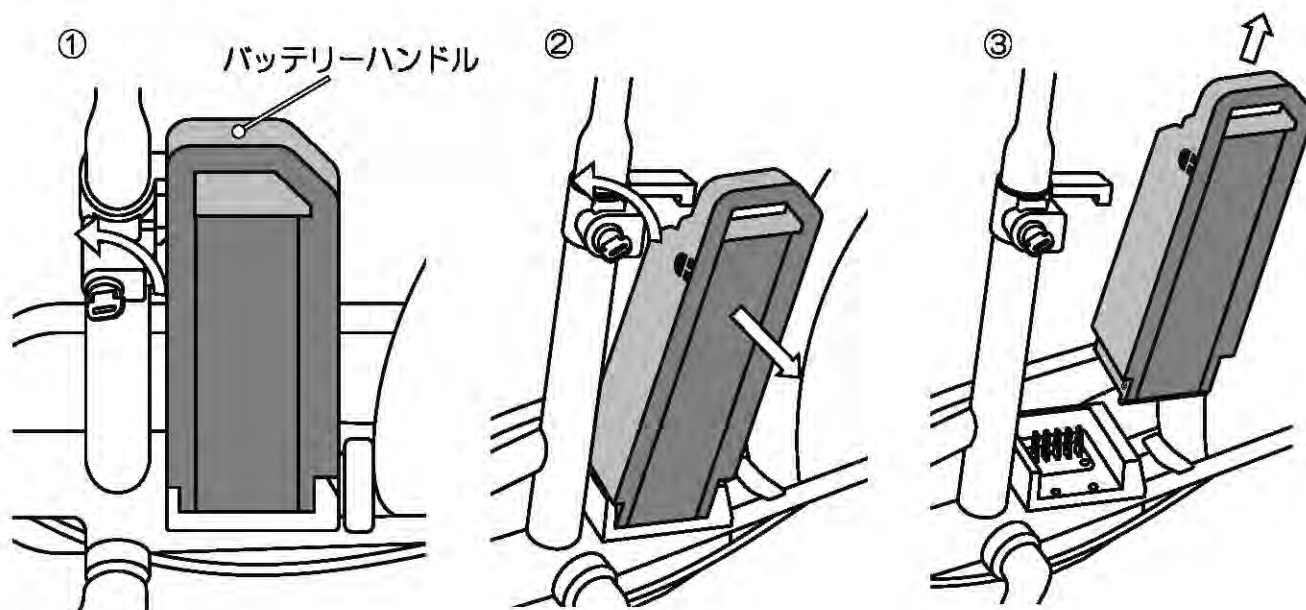
バッテリーを温度 15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。

バッテリーの取扱い・充電のしかた

1 - バッテリーを取り外す

※電源を切ってからバッテリーを取り外してください。

- ① バッテリーハンドルを持ち、カギを鍵穴に差し込み反時計回りに 90 度まわします。
- ② カギを回した状態のままバッテリーハンドルを手前に倒します。
- ③ そのまま上に引き抜くように取外します。
- ④ カギを忘れずに抜いて保管してください。



※上記はイメージ図です。

車種によってはバッテリー形状、バッテリーシリンダーの位置が異なる場合があります。

【注意】

- ・自転車本体から、必ずバッテリーを外して充電を行ってください。
- ・バッテリーを取り外すときはバッテリーハンドルを持ちながらキーを回してください。
- ・バッテリー本体を持たずにキーを回すとバッテリー本体が落下し破損、ケガをすることがあります。

2 - 充電する場所（下記条件をみたすところ）を決める

- 風通しがよく湿気の少ないところ。
- 平坦で安定のよいところ。
- 直射日光や雨つゆの当たらないところ。
- 周囲温度が 0℃～30℃のところ。
- 水がかからないところ。
- 幼児やペットの手が届かないところ。

【注意】

- ・必ず屋内で充電してください。野外では行わないでください。
- ・直射日光の当たる場所、室温が 35℃以上の場所、湿度の高い場所では充電しないでください。

3- バッテリーと充電器を接続する

①充電器の電源プラグをコンセントに差し込みます ⇒ 充電器本体のランプが緑色に点灯

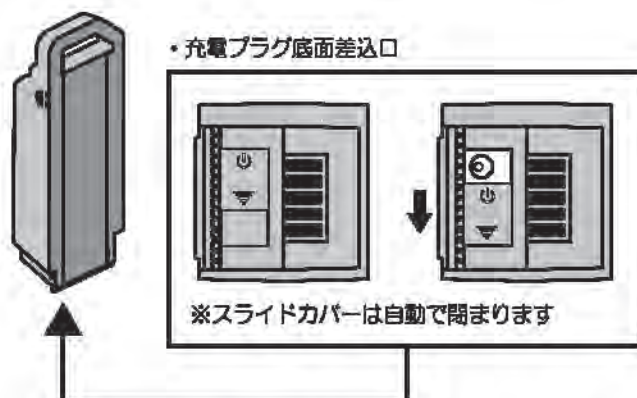
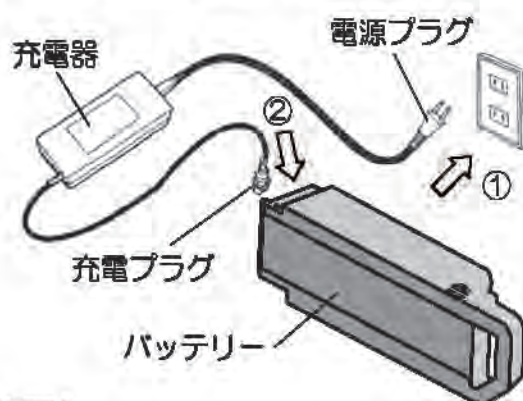
②充電プラグをバッテリーに接続します ⇒ 充電器本体のランプが赤色に点灯

充電プラグ差込口はバッテリー本体側面もしくは底面にあります。底面に差込口がある場合は、底面のスライドカバーを矢印の方向にスライドさせて、充電プラグをバッテリーの充電端子にしっかりと奥まで差し込んでください。

※点灯色が切り替わるのに5秒ほどかかることがあります。必ず点灯色が切り替わったことを確認してください。ランプが異常点滅している場合は、充電器をコンセントから抜いて、上記の手順で再接続してください。再接続後もランプが異常点滅を繰り返す場合は、ご使用を中止しサポートセンターまでお問い合わせください。

【注意】

充電器の電源プラグをコンセントに差し込む前にバッテリーと充電器を接続すると、火花が出る場合があります。上記①、②の手順で作業してください。



【注意】

- ・バッテリーと充電器を接続するときは、差込口が濡れていないこと、汚れがついていないことを確認してください。
- ・傾いたところで充電しないでください。
- ・充電プラグはバッテリーの充電端子の奥までしっかり差し込んでください。
- ・テレビやラジオの近くで充電しないでください。テレビやラジオに雑音が入る場合があります。
- ・充電器とバッテリーは5cm以上の間隔をあげ、覆い等で空気循環を妨げないでください。
- ・充電時以外はコンセントの接続を外してください。
- ・充電器の表示ランプが点滅している場合は、直ちにご使用を中止してください。

※バッテリーは工場出荷時、十分に充電されていません。ご使用になるときは充電してご使用ください。

4- 充電器ランプ表示説明

緑ランプ点灯	赤ランプ点灯	その他点滅
待機状態 / 充電完了	充電中	異常検知

【注意】

- ・充電完了後は充電器とコンセントの接続を解除してください。
- ・ランプが異常点滅している場合は、充電器をコンセントから抜いて、上記の手順で再接続してください。再接続後もランプが異常点滅を繰り返す場合は、ご使用を中止しサポートセンターまでお問い合わせください。

5 - 充電時間の目安

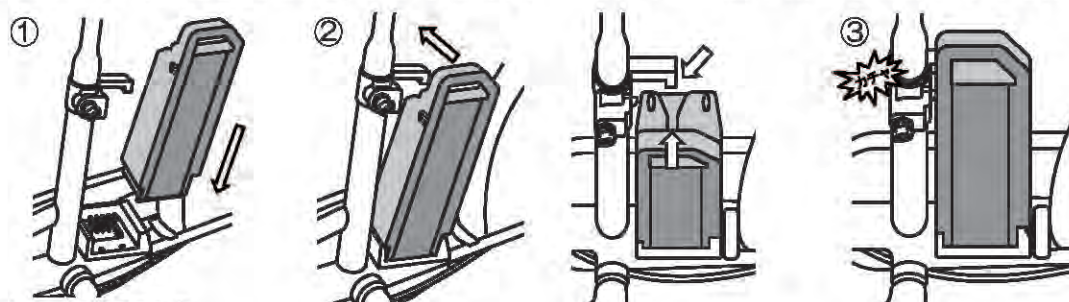
バッテリーの容量	4.0 Ah	5.8 Ah	8.5 Ah
充電時間	約 2 時間 20 分	約 3 時間 30 分	約 5 時間

- ・バッテリー本体の残量表示ランプが1つになってから充電した場合の時間です。
- ・充電前のバッテリー状態や充電環境温度などにより異なります。
- ・ご購入後はじめての充電は多少充電時間が長くなることがあります。
- ・充電中は、充電器およびバッテリーが多少熱くなりますが、異常ではありません。

6 - バッテリーの取り付け

※バッテリー取り付け部に異物がないか、濡れてないかを確認してください。

- ①バッテリーハンドルを持ち、バッテリー受け手前側の溝にバッテリー本体を合わせ斜めに差しこみます。
- ②バッテリーを矢印の方向（車体側斜め上方向）に押しします。
このとき、バッテリー側のレールと本体側のガイドを合わせるようにしてください。
- ③バッテリーを定位置に設置したあと、カギをかけてロックします。（車種によっては自動ロック機能付き）
※しっかり固定されていることを確認してください。また、キーは必ず抜いて保管してください。



※上記はイメージ図です。

車種によってはバッテリー形状、バッテリーシリンダーの位置が異なる場合があります。

8 - バッテリーの買い替えの目安と特性

- バッテリー買い替え時期の目安として、約 300 ～ 600 回の充電の繰り返して交換時期に至る場合がありますが、充電回数が 300 回未満の場合でもご使用頻度や保管の条件等により、1 ～ 2 年程度の使用期間で一充電あたりの走行距離が著しく短く（新品時の約半分以下）なる場合があります。
- ※ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる場所でバッテリーを保管すると通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。
- ※バッテリーは消耗品です。「バッテリー買い替えの目安」と保証期間は関係ありません。
- 長期間（1 ヶ月以上）保管されるときは自転車からバッテリーを外し、70%程度まで充電して室内の高温にならない涼しい場所で保管してください。使用しなくてもわずかながら放電します。3 ヶ月毎に 1 度充電残量を確認して必要であれば 10%程度補充し、再使用時は満充電をしてからご使用ください。
- 冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなりアシスト力が低下することがあります。
バッテリーを温度 15 ～ 25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。

この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。リチウムイオン電池はリサイクル可能な、貴重な資源です。不要になったバッテリーは完全に放電（アシスト走行ができなくなるまで）させてから、充電式電池リサイクル協力店にお持ちいただくか、保証書記載のサポートセンターまでご相談ください。使用済みの小型充電式電池のリサイクルにご協力をお願いします。



お手入れと保管

1 - お手入れについて

- 本体の汚れは、水を含ませ固くしぼったやわらかい布などで、きれいにふき取ってください。
- 汚れのひどいときは、中性洗剤を浸した布でふき取り、乾いた布で洗剤が残らないようによくふき取ってください。
- スポーク・ペダルシャフトなどのスチール部品は、布に防錆剤を吹き付けてふいてください。
- フレームなどの金属塗装部は、汚れをふき取った後、布に少量のワックスをつけてみがきます。

 警告	水洗いはしないでください。雨天走行で水にぬれたときは乾いた布でふき取ってください。浸水によって電気部品（モーター部、バッテリー部など）および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。
 注意	シンナーやベンジン、みがき粉、アルカリ性洗剤、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。変色、傷、変形、ヒビ割れの原因になります。

2 - 保管について

1. 保管場所（下記条件を満たすところ）を決めます。

- 風通しがよく湿気の少ないところ
- 平たんで安定のよいところ
- 直射日光や雨つゆの当たらないところ

※雨ざらしになるところや高温になるところは避けて保管してください。

ごみ・ほこり・汚れ・水濡れを防ぐためにサイクルカバーをご使用ください。

2. 電源スイッチが切れていることを確認してください。

3. カギをかけます。

※盗難防止のために必ず、カギをかけてキーを抜いてください。

※キーは紛失しないようにしっかり保管してください。

3 - 長期保管後のご使用について

1. ご使用になる前に、ご購入店舗またはお近くの自転車店にて有技術者による点検整備をお受けください。
2. 長期保管された場合、タイヤの空気が抜けていることがあります。ご使用していなくてもタイヤの空気は自然と抜けます。長期保管によってタイヤ・チューブが変形することがあり、再度空気を充填した際に、パンクする可能性があります。※パンクは保証対象外となります。
3. バッテリーは再充電してからご使用ください。

3 - 自転車の廃棄について

各自治体の指示内容に従って適切に処分してください。

故障かな？と思ったら

警告

- 次の点検をしていただき、それでもなお異常があるときは事故防止のためご使用を中止し、サポートセンターにご相談ください。
- 改造しないでください。分解や修理をしないでください。

1 - 自転車について

こんなとき	確認	対処
ペダルが重い	電源が入っていることを確認してください。	電源を入れてもアシストしない、電源が入らない場合はサポートセンターまでご連絡ください。
	タイヤの空気圧が減っている、もしくはパンクしていませんか。	空気を充填してください。パンクしている場合は、自転車店等で修理をしてください。
電源スイッチが入らない	バッテリーの充電残量を確認してください。	バッテリーを充電してください。
	配線は断線していませんか。	断線している場合は修理が必要です。
走行できる距離が短い	バッテリーの充電残量を確認してください。	バッテリーを充電してください。
	上り坂の連続走行や発進停止の繰り返しなど、高負荷運転をされていませんか。	走行条件によって、走行できる距離は短くなります。
	長期間使用しないで保管されていませんか。	バッテリーは自然放電します、長期間保管するとバッテリー残量は減ります。
	温度の低い環境でバッテリーを保管していませんか。	冬季などはバッテリーの特性上、バッテリーパフォーマンスが下がります。温度 15～25℃の室内で保管してからご使用ください。
操作パネルのランプが点滅する	自転車から降りて電源を入れ直してください。	改善されない場合はサポートセンターまでご連絡ください。
走行中に異音がする	各部品が駆動部に当たっていないか確認してください。	ご購入店もしくはお近くの自転車店で点検をお受けください。(有料)

- 上記以外にも当社ホームページ内『お客様サポート - よくあるご質問』にてご案内しておりますのでご確認ください。

2 - バッテリー・充電器について

こんなとき	確認	対処
充電器のランプが点灯しない	電源プラグはコンセントに接続してありますか。	28 ページに記載されている順番で、もう一度バッテリーと充電器を接続してください。
充電器のランプが点滅する	充電完了後も長い時間、バッテリーと充電器を接続していませんか。	充電完了後はバッテリー、充電器、コンセントの接続を解除してください。
	充電直後に再接続していませんか。	満充電からの追加充電はしないでください。バッテリーの劣化を促進させます。
	周囲温度が 30℃以上もしくは 0℃以下ではありませんか。	周囲温度が 0℃～ 30℃のところで充電してください。
	-	時間をおいて、再度充電してください
充電しない	他社製品の充電器を使用されていませんか。	充電器裏面の型番・製造会社名等を確認してください。
	バッテリー本体の残量表示は点灯しますか。	充電しても点灯しない場合はサポートセンターまでご連絡ください。
充電中にバッテリー・充電器が熱くなる	手で触れられないくらい熱くなっていますか。	充電中は多少熱く（40℃～ 70℃）になりますが故障ではありません。手で触れられないほど熱いときは異常です。電源プラグを抜いてサポートセンターまでご連絡ください。
異臭・異音・煙が確認された	-	ただちにご使用を中止し、サポートセンターまでご連絡ください。

- 上記以外にも当社ホームページ内『お客様サポート - よくあるご質問』にてご案内しておりますのでご確認ください。

防犯登録について

●防犯登録は法律で義務付けられています。お買い上げの販売店または自転車用防犯登録所の看板のある自転車店にご相談ください。

－ 車体番号が刻印されている場所 －

車体番号はヘッドチューブ（前ブレーキ本体上部）、またはバッテリー後方部のプレートに刻印されています。



●盗難にあった場合には捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入してください。

記入欄

--

●TSマークについて

TSマークは、道路交通法令の基準に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した自転車に貼付されます。自転車に貼られたTSマークは、はがさないでください。

※工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。

保険であるTSマーク（青マーク第一種、赤マーク第二種）については
お近くの自転車店にご相談ください。

※一部、型式認定を取得していない車種があります。



●乗る前の点検

「乗る前の点検」とは、ご使用前に毎日お客様ご自身でおこなっていただく最少限度の点検・調整のことです。
「お乗りになるまえの点検と調整」に書かれた点検方法に従い、ご使用前に必ず実施してください。

●定期点検・調整

「定期点検・調整」とは、末永く安全にご愛用いただくため、お客様に代わってお買い求めいただいた販売店などでおこなう点検・調整のことです。販売店（自転車組立整備士・自転車安全整備士）へご依頼ください。
※料金は有料となります。あらかじめ販売店などにご相談ください。

点検・整備チェックリスト

- ・購入後は必ず自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者による初期点検を行ってください。
- ・ご使用開始から2か月以内に点検を行ってください。2か月ほどで各部のねじに緩みが生じることがあります。
- ・以降は6か月ごとに点検を行ってください。
- ・安全にご使用いただくために、必ず継続して点検を行ってください。
- ・定期点検以外でも異音・異常を感じたときは、すみやかに点検を行ってください。

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
点検項目	購入時	2ヶ月	6ヶ月	1年	1年半	2年	2年半
大きさは乗り手の体格にあっているか							
サドルにまたがって足が地面に届くか またサドルの固定は確実か							
ハンドルの高さは適正か、また固定は確実か							
フレーム、前ホークに変形や亀裂はないか							
ヘッド、ハンガー小物にガタ・摩耗はないか							
どろよけの固定は確実か、変形はないか							
後キャリアに変形、折損はないか しっかり取付されているか							
スタンドの取付と作動は正常か							
タイヤの空気は適正か、すりへっていないか							
ペダルの固定は確実か、バリはないか 変形や折損はないか、回転は正常か							
クランクに曲がりはないか、ガタつきはないか							
車輪の固定は確実か フレーム等に接触していないか							
スポークのゆるみ、変形、切損はないか 軸部のガタはないか							
ブレーキゴム・ワイヤーは摩耗していないか							
チェーンのたるみ、張りは適正か							
前照灯は点灯するか							
リフレクターは破損していないか							
ベルは良く鳴るか							
ギアチェンジは正確に作動するか							
定期点検・整備を実施した 販売店ならびに年月日	⑩ 年月日						

※書き方 点検・・・良好○ 不備×

品質保証規定

－ 無料修理規定 －

- 保証期間はご購入日より 1 年間。但し消耗部品等は除く。
 - 取扱説明書の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
(イ) 無料修理をご依頼になる場合には商品に保証書を添えて頂き、ご購入販売店にお申しつけください。
 - ご転居の場合の修理ご依頼等はお買い上げ販売店にご相談ください。
 - ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合には、保証書に記載の相談窓口にご相談ください。
 - 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
(イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
(ロ) 取扱説明書に従わない使用方法（乗車定員、禁止事項の無視等）による故障及び損傷
(ハ) 衝突・転倒・転落等の扱いの誤りによる故障及び損傷
(ニ) 自転車一般在に走行しない場所を走行された場合の故障及び損傷
(ホ) 業務用（荷物運搬、新聞配達等）・営業用（レンタルサイクル等）・不特定多数で使用された場合の故障及び損傷
(ヘ) 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変及び公害・塩害・ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
(ト) 消耗部品等（下記記載）及び消耗部品の消耗によって生じた二次的故障及び損傷
- | | |
|-------|--|
| 消耗部品等 | タイヤ・チューブ・バルブ・ギアワイヤー・ブレーキワイヤー・チェーン・リム・スポーク・ニップル・ハブ軸（内装ギア含む）・ギアクランク・スプロケット・ブレーキパッド・グリップ・カゴ・サドル・ベル・スタンド・ドレスガード・ペダル・カギ・リフレクター類 |
|-------|--|
- (チ) レース等の酷使による故障及び損傷
 - (リ) クギ・ピン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ等により生じたパンク
 - (ヌ) 保証書のご提示かない場合
 - (ル) 保証書はお買い上げ年月日・お客様名・販売店名の記入捺印がない場合、あるいは文字を書き換えられた場合
*但し購入時、購入年月日・製品名（品番）・販売店名の記入がない場合は、納品書などの製品名（品番）購入年月日・販売店名が記載されたものをご用意ください。
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
 - 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
 - ご相談窓口は下記をご参照ください。

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。

※本規定の変更

当社は、お客様への事前の通知およびその承諾なしに本規定の内容を変更できるものとします。この場合、本保証書の提供条件は変更後の規定によるものとします。なお、変更後の規定については、当社ホームページにより通知するものとします。<http://kaihou.com/>

品質保証書 貼付

KAIHOU

株式会社 カイホウジャパン

〒192-0903

東京都八王子市万町10-1

TEL：042-686-3645（サポートセンター）

受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）10～17時

総合お客様サポートページは

こちら

